

2017年08月15日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【北朝鮮は、ミサイルを発射するのか?】

北朝鮮と米国の緊張関係が、緊迫化しており、それが、マーケット(外国為替市場)のテーマ(材料)になっている。

しかしながら、トランプ米国大統領も、北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長も、挑発的な発言を、繰り返し発表するだけで、表面上は、訳が分からない。

水面下で、何かしらの交渉を行っているのだろうが、その交渉内容は、トップシークレットなのだろう。

漏れて伝わっては来ていない様子だ。

北朝鮮は、グアムにミサイルを4発発射する旨の恫喝とも受け取れる発言を繰り返している。

日本の防衛省も、北朝鮮からグアムにミサイルが発射される場合に通過する地域に、ミサイルを迎撃する体制を整えた様子だ。

果たして、北朝鮮がミサイルを発射するのか、しないのか?

こればかりは、事前に予想することは不可能だ。

また、それが発射された場合に、米国がどういった行動を取るのか?

米国は、「あらゆる選択肢がある」としているのですが、このことも、また、事前に予想することが、難しい。

いち市場参加者の立場でモノ申せば、「お盆休み」の真っ最中に、全く困ったものだ、といったところだが、北朝鮮に文句を言っても、米国に文句を言っても、どうにもなりそうにない。

日本の「お盆休み」が明けても、引き続き、外国為替市場は「夏休み相場」で、市場参加者が極端に少なく、積極的な取引は期待できない。

こういった場合は、ポジションを縮小して、リスクを回避することがセオリーだろう。

9月の声を聞くまで、積極的にリスクを取らないように留意する必要があります。

繰り返しますが、北朝鮮と米国の行動は、事前に予想することが、事実上、不可能であり、  
米国に同調しようとする日本の政治は、要するに、米国次第なので、これも、事前に予測  
することができません。

+++++

(2017年08月15日東京時間15:15記述)